ハリポタ施設6月開業　テーマパーク復権へ脱「絶叫」

#地域総合 #インバウンド #新型コロナ

2023/3/15 11:00 (2023/3/16 10:00 更新)

米映画大手傘下のワーナーブラザーススタジオジャパン（東京・港）は人気映画「ハリー・ポッター」のテーマパークを6月16日に開業する。英ロンドンに続く世界2カ所目で、アジアでは初。チケット（大人6300円）は事前予約制とし、余裕をもって散策してもらう。22日から先行販売を始める。

15日、建設中の「スタジオツアー東京」を報道公開した。20年に閉園したとしまえん跡地（練馬城址公園内）に鉄骨2階建ての施設を建設中で、敷地面積はロンドンより広い9万平方メートル。30年間限定で営業する。

「ファンタスティック・ビースト」シリーズの制作の裏側を追体験できるセットはロンドンにもないという。ハリポタでは、魔法の世界へとつながる「9と4分の3番線」が主人公、ハリーがロンに最初に出会った場所だ。人間界と魔法の世界をつなぐ「ホグワーツ特急」には実際に乗車して写真撮影ができる。

同社の松尾俊宏副社長は「ポスト東京五輪のインバウンド（訪日外国人）需要に対応できる国際色あふれる施設にしたい」と話した。ロンドンの施設は世界からファンが訪れる観光名所となり、チケットは入手困難な状況が続く。2012年の開業以来1700万人が来場し、東京でもインバウンドの来園を見込む。

事前予約制でチケット料金は中高生5200円、4歳〜小学生3800円。小道具、衣装などを配置し、動く階段に乗って肖像画に映りこむ趣向もある。来園者は施設内を半日ほどかけて通り抜ける。

経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査」によると、22年の国内のテーマパーク・遊園地での1人あたり消費額は初めて1万円台を突破した。一時はコロナ前の約3分の1に落ち込んでいた売上高も8割弱の水準に回復し、少子化を見越して消費意欲の高い若者や中高年に照準を移す動きも相次いでいる。

22年に部分開業したジブリパーク（愛知県長久手市）や童話「ムーミン」を再現した「メッツァ」（埼玉県飯能市）など、ディテールや再現度の高さを売りにする施設にはテーマパークの定番だった絶叫マシンがない。新型コロナ禍からの回復局面を迎え、レジャーにも新たな潮流が生まれつつある。

（森岡聖陽）

【関連記事】

・ハリポタ施設23年夏開業の練馬区、「魔法の街」で誘客へ

・テーマパーク「没入感」に磨き　回復は本物か

・ナルニアからハリポタまで　四大ファンタジーの想像力

この記事の英文をNikkei Asiaで読む

Nikkei Asia

＜訂正＞2023年3月15日午前11時公開の「ハリポタ施設6月開業」の記事中、「ワーナーブラザースジャパン」とあったのは「ワーナーブラザーススタジオジャパン」の誤りでした。(2023/3/16 10:00)